

平成24年度版
京都市の学校評価システム

平成23年度実施状況

——「自らを振り返り」「互いに高め合う」——

平成24年9月

京都市教育委員会

目 次

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方	2
2 重点項目	5
3 実施状況	5
4 学校評価関係年表	13

II 学校での取組事例

1 京都市立桂東小学校	17
～学校・家庭・地域の連携による教育の充実を目指す学校評価～	
2 京都市立砂川小学校	24
～地域ぐるみの学校づくりを行うための学校改善に生きる学校評価～	
3 京都市立双ヶ丘中学校	31
～学校・家庭・地域が一体となって、教育の充実を目指す学校評価～	

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、学校評価を推進するにあたり、平成13年度に校長会との共同プロジェクトを立ち上げ、学校評価の試行実施を開始し、2年間の議論と実践をもとにプロジェクトのまとめ「今、学校にもとめられているもの」を発行すると同時に学校評価ガイドラインを策定し、学校と家庭・地域が、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係を築くことを目指す学校評価を平成15年度から全校で実施した。

○その後の経過

H16年	全校での評価結果の公表
H18年	学校評価システムの検証を行う専門委員会の設置
H19年4月	「京都市学校評価システムガイドライン（平成15年度版）」の改訂
H19年6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行

この間、学校評価活動を深化させながら、PDCAサイクルによる「学校評価システム」の着実な浸透を図ってきた。また、国においても、学校評価をめぐる法令の改正があり、学校自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告が義務化されるとともに、自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ることも努力義務化された。

こうした状況を踏まえ、平成21年6月、「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」を策定し、次の4点を柱として、学校評価の充実に努めている。

（1）学校評価をみんなのものにする

教職員一人一人が、学校経営方針を踏まえた各学級の経営の方針等と評価項目・評価指標との関連を意識し、よりよい学校、学級づくりに生かしていくことが何より必要である。そのため、各学校では、校内評価委員会を中心に全教職員が評価項目・指標、学校教育目標の具現化に向けた実践や評価結果を共有し、「自己評価」を今後の教育活動の改善に結び付けるとともに、保護者・地域の方々による「学校関係者評価」やそれらの評価結果の公表を行っている。こうした取組を通して、学校評価は、教職員はもとより、保護者・地域の方々も含めた「みんなのもの」となり、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの学校生活を「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

（2）学校の魅力を発見し、発信する

学校の課題を把握し、その克服・改善に向けた取組に結び付けるとともに、学校の魅力が見える評価手法を用いることが重要である。本市では、平成20年度から22年度まで慶應義塾大学と学校評価支援システムの構築に向けた共同研究に取り組んだ。この研究では、調査設計や集計が簡単・迅速で、かつ分析結果から自校の課題や魅力が一目で分かる課題発見・魅力発見型の新しいアンケート手法を導入した。

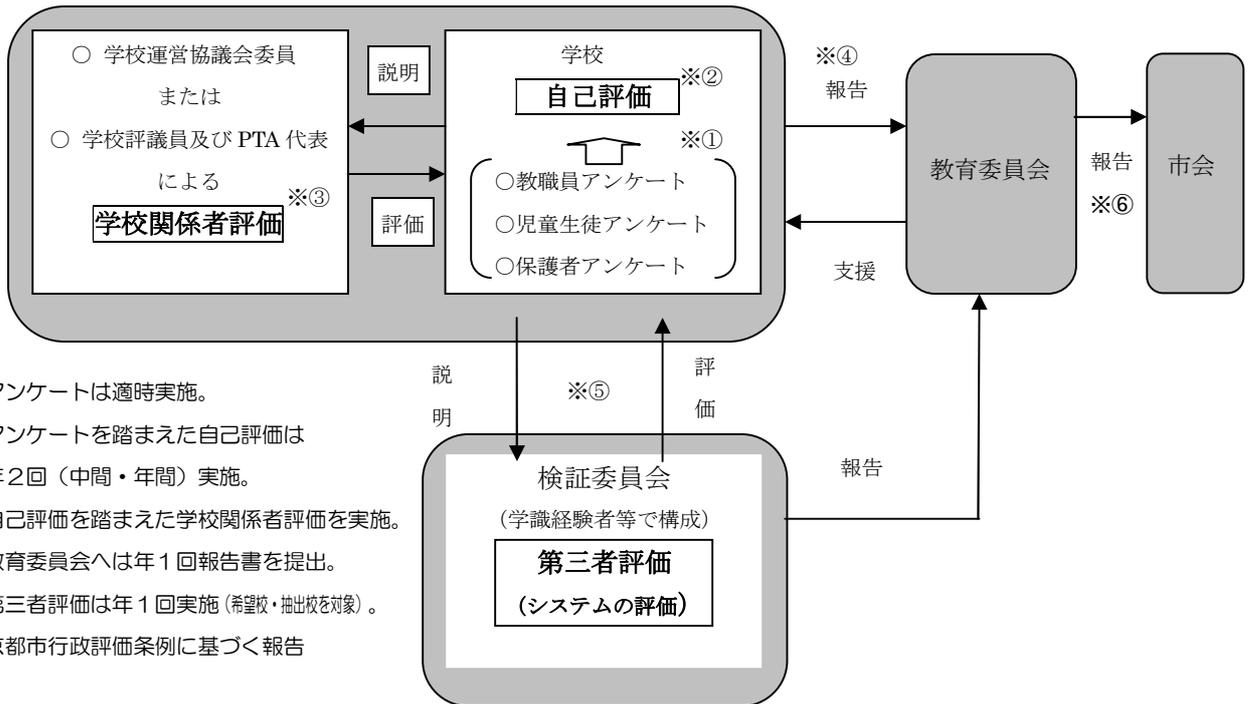
（3）自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、学校評価システムの導入当初から、保護者・地域等が学校を一方向的に評価するのではなく、それぞれがそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」そして、「子どもたちは、自らの学習に向かう学びの姿勢を振り返る」ことである。「それぞれが自らを振り返る」という視点を持つことにより、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係の構築を目指し、取り組んできた。

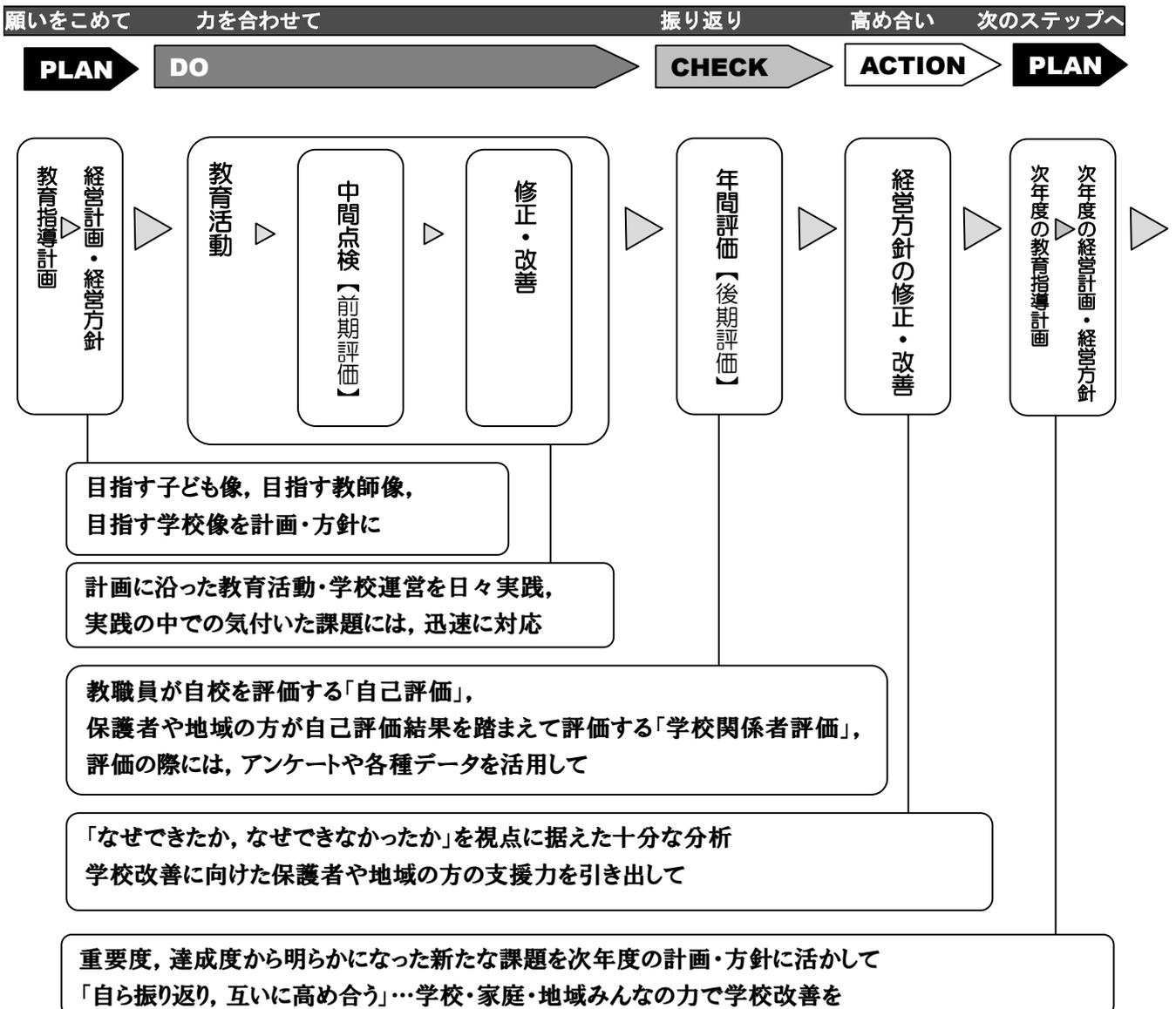
（4）当事者意識を持って評価する

単なる評価者として学校を見るのではなく、よりよい学校づくりを一緒になって進める当事者としての意識を持って評価する。特に、本市では、学校運営協議会の大きな機能の一つとなっている学校関係者評価の中で、学校の自己評価結果に対する評価とともに、学校改善に向けた支援策を明記することとしている。

《自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図》

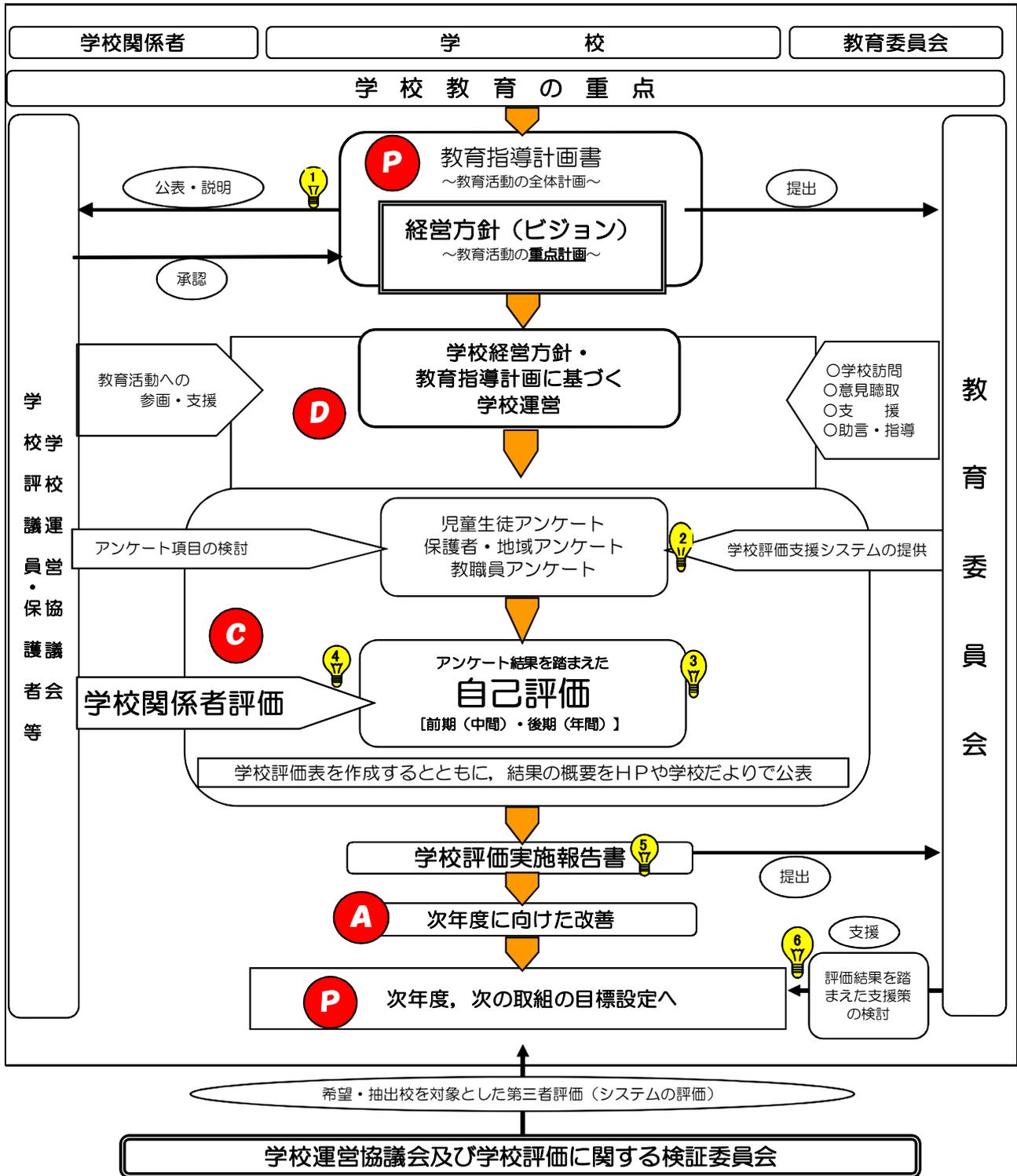


《PDCAサイクルに基づく学校評価の流れ》



学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



ポイント

- 1 学校経営方針，学校評価年間計画，評価項目の策定，公表
- 2 学校の魅力・課題の発見につながるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ，評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と，課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

2 重点項目

平成23年度においては、これまでの取組の上に立って、学校評価の一層の充実を目指し、以下の3点を重点課題とした。

- 1 学校評価結果をより分かりやすくA4用紙1枚でまとめるため、従来利用を推奨していた学校評価表と様式を統一した学校評価実施報告書を全ての小中学校で作成。
- 2 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による、学校訪問（第三者評価）を実施。
- 3 学校評価を通じて、学校運営の組織的・継続的な改善や地域と一体となった学校づくりを推進していくため、学校経営の観点から見た学校評価と経営ビジョンをテーマに管理職を対象にした学校経営力向上講座を実施。

3 実施状況

(1) 「自己評価」の実施状況

ア 実施状況

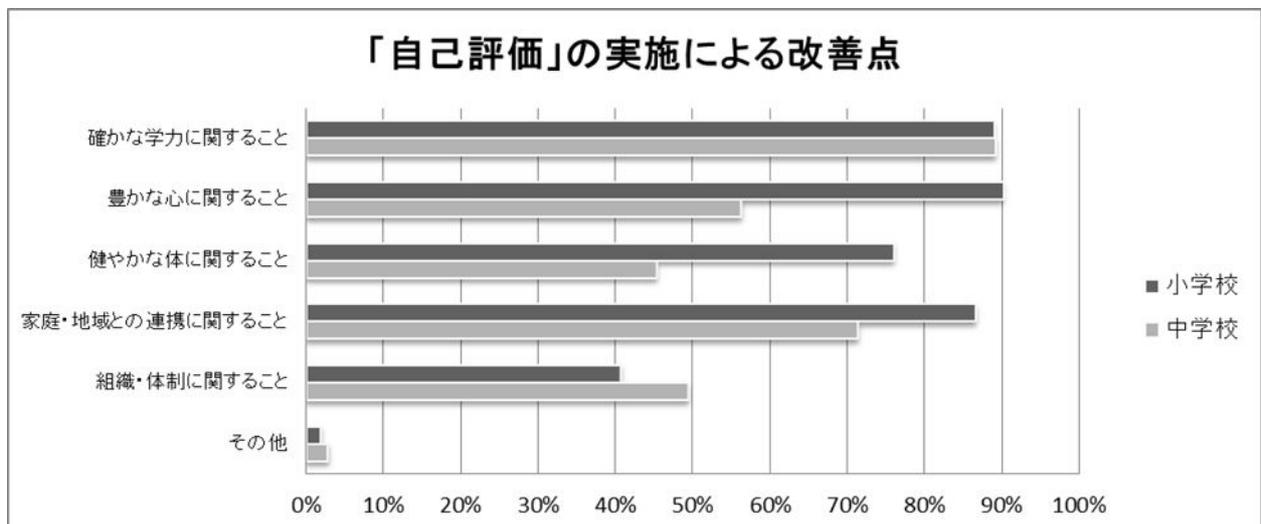
全ての小中学校で、保護者、児童・生徒によるアンケートを実施するとともに、それらを基にした「自己評価（学校教育法施行規則第66条で義務化）」を行った。それらの結果については、各学校において、学校評価を特集した「学校だより」やホームページ等で公表した。

イ 「自己評価」の実施による改善点

小中学校に、「昨年度（平成23年度）の自己評価の実施は、どのような点の改善に役立つものであったと考えますか。」と調査したところ、以下のとおりの回答を得た（複数回答可）。

「確かな学力に関すること」が小中学校共に89%と高い割合となっており、平成22年度と比較して6ポイント上昇している。これは、近年の学力に対する関心の高まりの中で、各校が確かな学力の定着のため、自己評価を基に、改善に向けた取組の充実を図ろうとする意欲の表れと推測される。

	確かな学力に関すること	豊かな心に関すること	健やかな体に関すること	家庭・地域との連携に関すること	組織・体制に関すること	その他
小	89%	90%	76%	86%	41%	2%
中	89%	56%	45%	71%	49%	3%



(2) 「学校関係者評価」の実施状況

「学校関係者評価（学校教育法施行規則第67条で努力義務化）」については、全ての小中学校で、「学校運営協議会」又は「学校評議員が一堂に会する場」で保護者による評価や児童生徒による評価も含めた自己評価の結果と改善策を説明し、意見をいただく形態で実施している。学校運営協議会委員や学校評議員の意見が、学校自己評価結果と照らし合わされることによって、具体的な改善策に結びついている。

また、学校運営協議会設置校では、協議会に「評価部会」を設けること等により、評価項目の検討から分析まで学校運営協議会が主体的に参画している事例もある。学校評価の一連の流れに参画することにより、学校運営の当事者としての意識が高まり、学校運営協議会の活動のさらなる活性化につながっている。

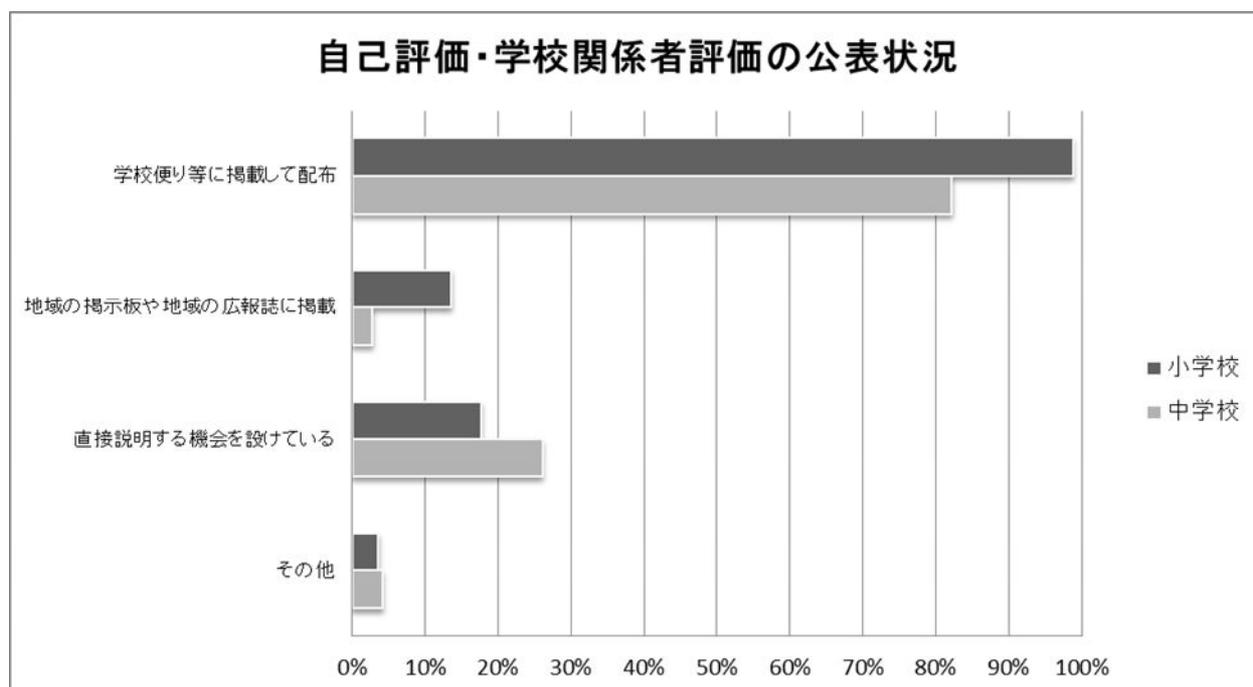
[参考] 学校運営協議会の設置数（平成24年3月末現在）

小学校：141校（設置率81.5%） 中学校：28校（設置率38.4%）

(3) 「自己評価・学校関係者評価」の公表状況

小中学校に対し、「昨年度（平成23年度）の自己評価・学校関係者評価の結果について、ホームページ以外に、保護者や地域住民等にどのような方法で広く公表していますか。」と調査したところ、以下のとおりの回答を得た（複数回答可）。小学校が99%、中学校は82%以上の学校が学校便り等に「自己評価・学校関係者評価」の結果を掲載しており、学校便り等に掲載していない学校については、直接説明する機会を設けて、積極的に学校評価の結果を公表している。また、その他の自由記述回答には、「学校評価の結果をプリントして町内会から各家庭へ回覧」「地域懇談会や各種総会で説明」等、保護者のみならず地域にも学校への関心を高める活動を実施している回答も見られた。

	学校便り等に掲載して配布	地域の掲示板や地域の広報誌に掲載	直接説明する機会を設けている	その他
小	99%	14%	18%	4%
中	82%	3%	26%	4%



(4)「第三者評価」等の実施状況

ア 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」について

本市の学校評価システムは、「自らを振り返り、互いに高め合う」ことを理念としており、学校・家庭・地域が「子どもを育む当事者」として関わることを重視している。

そのため、評価項目等も各校の課題に応じて重点化して設定している。一方、学校評価の実施状況や本市が進める学校評価システムの客観性・信頼性を検証するとともに、第三者的な視点で学校の教育の質の向上につなげるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下「検証委員会」という）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項に規定される「・・・評価について調査し、審議するため」の委員会としての機能も果たしている。

【検証委員会委員（23年度）敬称略・肩書は当時】

天笠 茂	千葉大学教授	
大岩 英雄	公募委員（下京中学校学校運営協議会委員）	
加藤 明	兵庫教育大学教授	
○小松 郁夫	玉川大学教職大学院教授	
塩尻 マユミ	元向島南小学校長・元地域教育専門主事室副室長	
深田 敦子	P T A代表（京都市小学校P T A連絡協議会会計）	
◎堀内 孜	京都教育大学教授	
前平 泰志	京都大学教授	
永本 多紀子	京都市立みつば幼稚園長	
林 明宏	京都市立醍醐小学校長	
山下 綾子	京都市立桃陵中学校長	
小林 一義	京都市立西総合支援学校長	
河村 広子	京都市教育委員会学校指導課長	※ ◎は委員長，○は副委員長

イ 検証委員会による学校訪問

本市の学校評価システムが、学校現場において、学校改善に向けたシステムとしての的確に機能しているかどうかを検証するため、学校訪問を実施した。

その結果、全体としては、「学校評価システムとして、市の方針に沿って適切に行われている」「学校評価の丁寧な分析の中で、自己評価を含めてうまく学校経営がなされている」との評価を得ている。

なお、今後に向けた改善策としては、「アンケート結果を教職員で共有し、教職員の同僚評価をさらに進めるべき」「学校評価アンケートについては、項目を多くするのではなく重点化しても良い」「教職員にとって、学校評価が形骸化・ルーティン化しないようにすべきである」などが提案された。

【第三者評価の実施校】

以下の学校において、校長・担当教員ヒアリング、授業観察等を実施。

①京都市立桂東小学校

- ・ 日 時 平成24年1月19日（木）午前9時～
- ・ 委 員 堀内委員長（リーダー）、加藤委員、塩尻委員、林委員、河村委員

②京都市立桂坂小学校

- ・日 時 平成24年1月19日(木) 正午～
- ・委 員 堀内委員長(リーダー), 加藤委員, 塩尻委員, 河村委員

③京都市立伏見南浜小学校

- ・日 時 平成24年1月26日(木) 午前9時～
- ・委 員 堀内委員長(リーダー), 塩尻委員, 深田委員, 林委員

④京都市立砂川小学校

- ・日 時 平成24年1月26日(木) 正午～
- ・委 員 堀内委員長(リーダー), 塩尻委員

⑤京都市立双ヶ丘中学校

- ・日 時 平成24年1月30日(月) 午前9時～
- ・委 員 小松副委員長(リーダー), 天笠委員, 山下委員

⑥京都市立檉原中学校

- ・日 時 平成24年1月30日(月) 正午～
- ・委 員 小松副委員長(リーダー), 天笠委員, 前平委員, 山下委員, 小林委員

⑦京都市立下鴨中学校

- ・日 時 平成24年1月31日(火) 午前9時～
- ・委 員 小松副委員長(リーダー) 大岩委員, 山下委員

⑧京都市立岡崎中学校

- ・日 時 平成24年1月31日(火) 正午～
- ・委 員 小松副委員長(リーダー) 大岩委員, 小林委員

ウ 平成23年度 検証委員会開催状況

①第1回会議

- ・日 時 平成23年10月27日(木) 午前10時～
 - ・会 場 京都市総合教育センター第2研修室
 - ・議 題 行政評価条例に基づく「学校評価」に関する市民意見申出について
検証委員会の学校訪問について
学校評価について
学校運営協議会について
 - ・議事概要
(検証委員会の学校訪問について)
- 昨年度, 小中2校ずつ訪問することによって, 学校評価の状況を比較することが出来た。この検証委員会も徐々に改善に向かってきたが, さらなる改善の余地があるのではないかと考えている。
- 学校訪問については, 学校評価の取組がどう改善に結び付けられているのかというところを確かめなければならない。複数校訪問することにより, ある程度比較できるだけの数が必要なため, 半日1校, 合計4校に増やすことを提案したい。
- 同じ行政区の学校で, 学校規模も同じような学校を訪問するのがよい。学校評価を検証す

る上で、客観的な条件を揃えることができる。

- 1日2校というのは距離の問題もあるので、同じ行政区で2校というような形にしたい。また、1年目の校長の学校はできるだけ外し、校長が2年目以上の学校にするほうがよい。昨年度どのような学校評価をして今年度どういう改善プランを作られたかということを確認できる。
- 学校評価及び学校運営協議会に関してはこの間ずいぶん進化したと思っている。国の第三者評価は、3日間びっしり行って、地域とのつながりや子どもの様子、教職員のこと、保健室の状況まで、全部評価する。一方、京都市の場合は絞って多くの学校を回ることにより、全市的に学校評価及び学校運営協議会が浸透しているかという観点から評価している。
- 学校評価のシステムやスケジュールが校長先生の学校経営の中でどのように位置づけられているのか、そのヒアリングを中心としたい。京都の学校評価はかなり良くできているが、さらに改良して行って欲しい。
- 私が学校訪問で最も見たいのは授業である。実際に学校評価が授業づくりにどうプラスになっているか、先生方の力量が高まっているか、子どもが巣立っているかというところを外してしまうと、学校評価の機能としては不十分だと思う。

(学校評価等について)

- 京都市における学校評価の特徴である、学校評価をみんなのものにする、魅力を発見し発信する、自らを振り返り互いに高め合う、当事者意識を持って評価する、この4つが非常に大事で、この視点で検証することが大切。
- 学校評価表の4つの分野(確かな学力、豊かな心、健やかな体、学校独自の取組)はとてもいいと思う。ただし、評価項目については、これがそのまま学校の目標のはずである。この目標が教職員全体の目標となっているかどうか。また、この目標が本当に適切かどうか。さらに、評価指標がしっかりしないと次の分析と改善策もずれてくる。
- 学校評価表を読ませていただいた中で、検証したいのは、改善策にどれだけ具体的なことが書かれ、今年どう改善されてきたかということ。もう一つは学校関係者評価。学校評価表の改善に向けた支援策の所で、一緒に改善を行っていくというところの改善策の部分を見たい。
- 学校評価を見ていくと校種間のつながりが薄いという評価が教職員、保護者から出ている。保護者の参画については、参加の仕方に温度差があり、その在り方が今後の課題。保護者の意見を受け取りながら、学校全体の運営にどうしていくかということも考え、取組を進めている。

②第2回会議

- ・日 時 平成24年2月13日(月)午前10時～
- ・会 場 京都市総合教育センター第2研修室
- ・議 題 検証委員会の学校訪問について
次年度以降の検証委員会の方向性等について

・議事概要

(検証委員会の学校訪問について)

- 訪問した小学校2校については、学校評価システムとしては市の方針で適切に行われていた。そのうちの1校で気になったのは、学校評価の形はできているが、目標と評価がつながっていないという点。そこがつながっていた学校は、そのことが子どもの姿にも表れている様子であった。
- 訪問した小学校は、授業を初めとして非常に丁寧な教育活動を展開されていた。学校評価

については、校長の学校経営のビジョンと照らし合わせることで重要であると感じた。

- 訪問した中学校は、非常に落ち着いた雰囲気、学校評価についても、丁寧な分析がなされ、学校評価を生かした優れた学校経営がなされていた。こうした中、道徳を柱として学校経営をされていることがよく表れていた。
- 訪問した中学校では、学校が安定しており、マネジメントが思いきりやれる学校であると感じたが、地域の特色をどう客体化し、利点としていくのかという視点が少し弱いという印象を持った。ただ、意欲的に様々なことに対し取組が進められており、そのさらなる充実に向け、それらを体系化して行って欲しい。
- 訪問した中学校ではシラバスをつくられていたが、それを生かしきれていない部分があると感じた。ただ、その学校は若い先生が多く、校長先生は人材育成の視点をきちんと考えておられるとともに、校長の学校経営の戦略は明確で、改善に生かそうとする視点も見えやすかった。
- 訪問した中学校は、校長先生がきめ細やかで、小さな変化を見逃さないというところがよくわかった。本時の目標を毎時間提示するという取組も良い。ただ、学校評価のアンケートについては、項目が多すぎるのではないかと。もう少し重点化しても良い。別の中学校では、マネジメントしようという意識が感じられたが、地域との連携はもう少しレベルアップが必要と感じた。

(次年度以降の検証委員会の方向性等について)

- アンケート結果をどう生かしていくかが課題。アンケート結果を教職員で共有し、教職員の同僚評価をさらに進めるべきである。
- 学校目標と学校評価のつながりが重要である。また、全国的なことではあるが、児童・生徒アンケートについては、活用の仕方に議論が必要。
- 教職員にとって、学校評価が形骸化・ルーティン化しないようにすべきである。また、校長会などへのアウトプットが非常に重要で、この検証委員会の取組、第三者評価をいかにして情報を発信していくのか。校長会からも情報を発信されているとは思いますが、全市の学校に広めて欲しい。教頭、教務主任へ学校評価の取組を伝えていくという縦の継承も大切である。
- 検証委員会の学校訪問の方法としては、学校を絞って、コンサルティング的に学期に1回程度継続的に学校訪問をするという方法もある。

(4) 京都市版学校評価支援システム

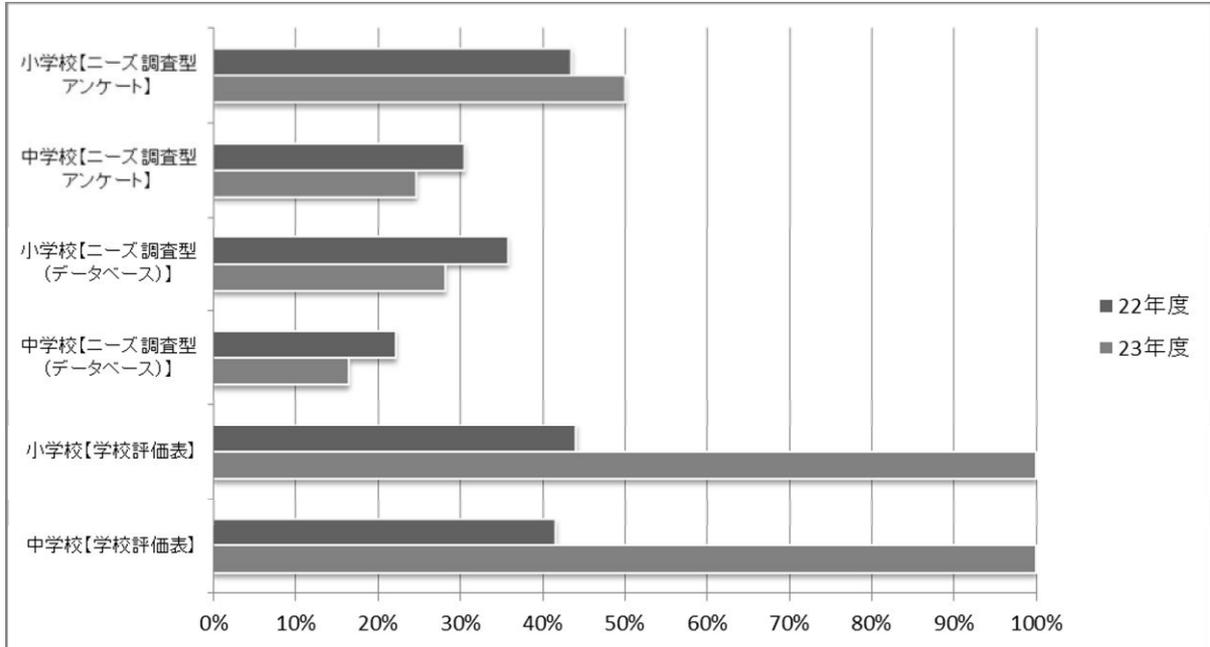
ア 概要

評価の集計、分析、公表の迅速化を図るため、平成19年度から、パソコン上でマークシート方式のアンケートを作成し、迅速な集計ができるソフトウェアを全市で活用することとした。こうした中、京都市教育委員会と慶應義塾大学との連携協力に関する協定(平成20年8月締結)に基づき、平成22年度までの3箇年をかけて、「京都市版学校評価支援システム」の共同開発を進めた。現在、多くの学校で「かんたん調査票作成ソフト」「かんたん調査票読み取りソフト」「かんたん課題分析データベース」からなる「学校評価支援システム(SES)」が活用されている。

イ 活用状況

平成23年度、学校評価実施報告書の様式を学校評価表を含む形式に変更し、全ての小中学校で、学校評価実施報告を使用することとした。ニーズ調査型アンケートの利用については、その割合が減少している校種、項目があるが、今後も研修会の実施やマニュアルの改良を図るなどしてその普及へ努めていく。

活用状況	小学校		中学校		合計	
	校数	割合	校数	割合	校数	割合
ニーズ調査型アンケートの実施	85校	50.0%	18校	24.7%	103校	42.4%
ニーズ調査型データベース分析	48校	28.2%	12校	16.4%	60校	24.7%
学校評価表の活用	170校	100.0%	73校	100.0%	243校	100.0%



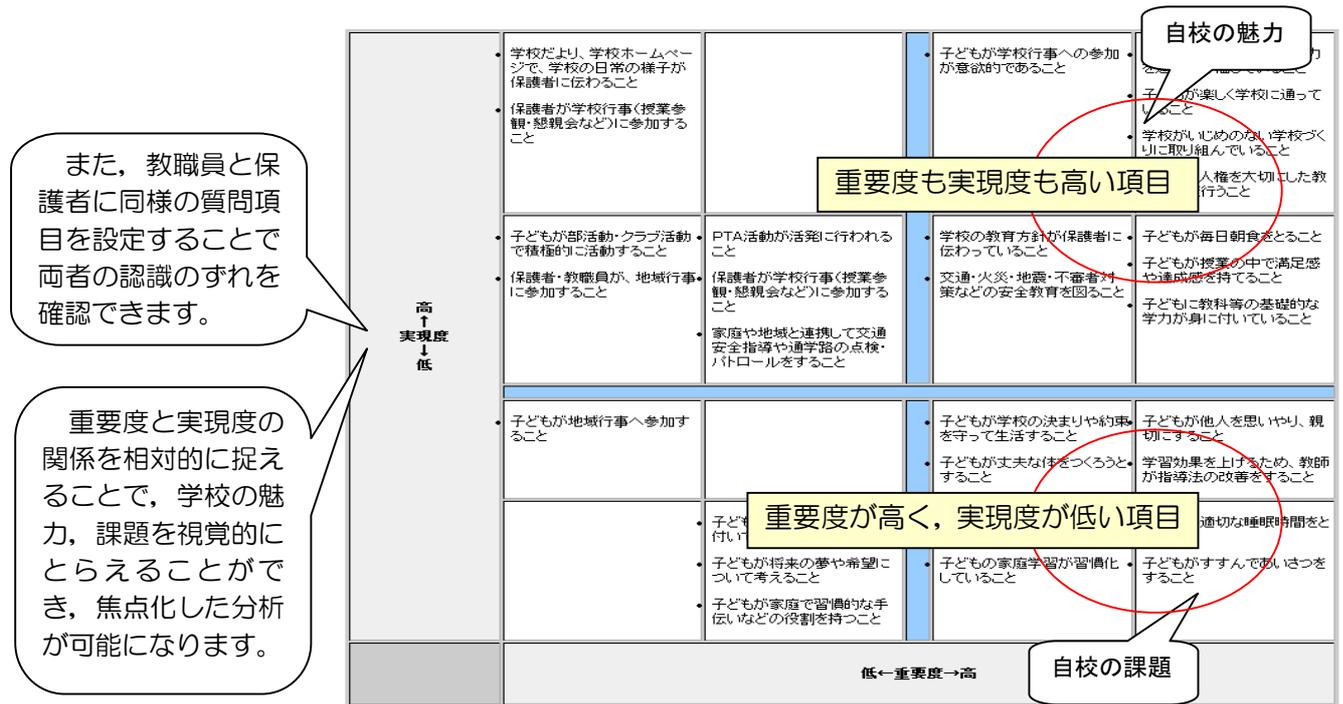
ウ 魅力・課題発見型（ニーズ調査型）アンケート手法の例

京都市版学校評価支援システムでは、アンケートの中で各項目の重要度と実現度を同時に聞くことにより、学校の魅力・課題を自動的に分析することができる。

質問文	分析結果例		
	▲重要度▼	▲実現度▼	▲ニーズ度▼
子どもが適切な言葉づかいをすること	6.6	3.9	27.1
子どもが丈夫な体をつくろうとすること	6.6	4.4	23.8
子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	6.7	4.6	22.9
子どもが他人を思いやり、親切にすること	6.9	4.1	22.5
子どもが楽しく学校に通っていること	6.9	4.1	18.4
子どもが将来の夢や希望について考えること	6.3	4.1	24.5
子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	6.3	3.8	26.2
子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	5.9	5.1	17.4
学校が、じめのない学校づくりに取り組んでいること	6.9	5.3	18.4
学校が、人権を大切にした教育活動を行うこと	6.9	5.6	16.7
学校の教育方針が保護者に伝わっていること	6.5	4.8	20.7
学校だより、学校ホームページで、学校の日常の様子が保護者に伝わること	6.1	5.2	17.1

■ は、重要度が高い項目
■ は、実現度が低い項目
■ は重要度が高く、実現度が低い項目。この項目を重点課題に位置付けるなど、回答に表れた願いを学校の取組に反映させることができます。

分布



(5) 学校経営力向上講座

学校が自律した組織として効果的に機能する特色ある学校経営が強く求められていることを踏まえ、管理職が主体性を持って、学校経営力をはじめとする多様な資質及び力量の向上を図るため、学校経営の観点から見た学校評価と経営ビジョンをテーマとした講座を開催した。

- ・日 時 平成24年2月14日(火)午後2時45分～
- ・対 象 管理職、主幹教諭、指導教諭(参加者数48名)
- ・内 容 ○講義「これからの学校評価に求められること」

戸塚恵美子 学校指導課首席指導主事

○実践発表①

「学校経営の観点から見た、学校評価と経営ビジョン」

岩田 陽 京都市立砂川小学校長

○実践発表②

「学校経営と学校評価～SMP学校評価支援システムの活用～」

上野 正智 京都市立高野中学校長

○校種別意見交換会

・参加者の感想

- 評価の結果を出すだけに留まっている部分があることに気づいた。学校組織の改革とも併せて具体的な学校改革に取り組んでいかななくてはならないと思う。
- 校種別意見交換会があったことで、隣席の先生と意見交換をすることができ、他の学校で実施している学校評価の項目、課題を知ることができた。

4 学校評価関係年表

年月	京都市	国
H10年9月		○中教審答申『今後の地方教育行政のあり方について』 「…各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること…」
H12年12月		○教育改革国民会議報告『教育を変える17の提案』 「…地域で育つ、地域を育てる学校づくりを進める。単一の価値や評価基準による序列社会ではなく、多様な価値が可能な、自発性を互いに支えあう社会と学校を目指すべき…」 「…各々の学校の特徴を出すという観点から、外部評価を含む学校の評価制度を導入し、評価結果は親や地域と共有し、学校の改善につなげる…」 ○教育課程審議会答申『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価のあり方について』 「…各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である…」 「…自己点検・自己評価の公表については、地域や学校の実情に応じて、各教育委員会等においてそのあり方を検討することが望ましい。また、公表に当たっては、序列化などの問題が生じないよう、十分留意する必要がある…」
H12	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正（学校評議員の設置を明記）	
H13	○学校評議員を全校・園に設置	
H13年8月	○京都市新世紀教育改革推進プロジェクト「学校評価部会」発足（～平成15年2月）	
H13年9月	○京都市学校評価実践研究協力校7校を指定	
H14年2月		○中教審答申『今後の教員免許制度のあり方について』 「…学校と学校外との双方向のコミュニケーションの成立を確実にするため、学校の自己点検・自己評価の実施とその結果を保護者や地域住民等に公表する学校評価システムを早期に確立することを提言する…」
H14年3月		○小・中学校設置基準 （自己評価の実施と結果の公表が努力義務化。保護者等に対する情報提供を積極的に行うよう規定）
H14	○京都市では学校評価を全校種40校で実施 ○地域教育専門主事室「今求められる学校づくりのために」（実践事例集・ガイドライン）発行 ○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」で国が御所南小を指定。同事業の一環として、京都市が独自に高倉小を指定	

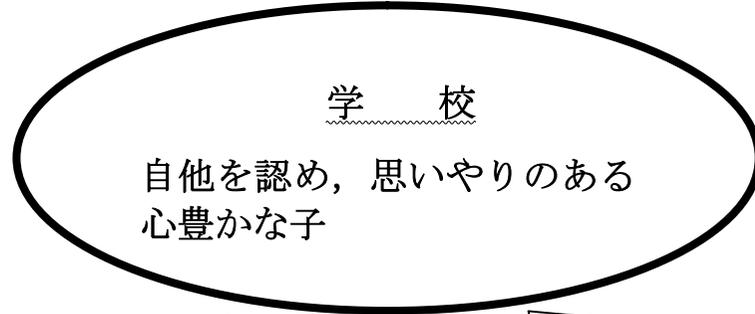
年月	京都市	国
H15	○学校評価を全校・園で実施 ○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」の一環として、京都市が独自に京都御池中を指定。すでに指定を受けている御所南小・高倉小と共に実践研究を進める	
H16	○評価結果を全校・園で公表	
H16年11月	○京都市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の制定 ○御所南小・高倉小・京都御池中に学校運営協議会を設置	
H17年5月	○学校運営協議会5校設置	
H17年6月		○閣議決定『経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005』（義務教育における外部評価の実施と結果の公表のためのガイドライン策定が掲げられる） ○中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』（大綱的な学校評価ガイドラインの策定が必要と提起）
H17年10月		○中教審答申『義務教育の構造改革』 「…教育の結果の検証を国の責任で行う。具体的施策として全国学力調査と学校評価システムをあげた…「教育の質的向上に寄与する学校評価」という新たな捉え方」
H18年3月	○学校運営協議会17校設置	○文部科学大臣決定『義務教育諸学校における学校評価ガイドライン』（京都市などの事例を基に国の学校評価ガイドライン発表）
H18	○児童・生徒によるアンケート評価を全校実施	
H18年12月	○学校評価専門部会の設置	○「規制改革・民間開放推進に関する第3次答申」（学校教育制度の評価確立が求められる） ○教育基本法改正
H19年1月		○教育再生会議第1次報告『社会総がかりで教育再生を』（保護者等による実効ある外部評価の導入とその結果の公表について提言）
H19年3月	○京都市教育委員会「学校評価実践協力校の実践報告集」発行 ○学校運営協議会60校設置	○初等中等教育局長通知 「…学校評価制度等に係る運用上の工夫等について」（個人情報に配慮した上でホームページ等で評価結果を公表するよう促している） ○中教審答申『教育基本法の改正を受けて緊急に必要な教育制度の改正について』 「…情報提供に関する学校の責務の明確化は、公の性質を有する学校が、自らの説明責任を果たすためにも重要…」 ○文部科学省通知 「…個人情報に配慮した上で、評価結果をホームページ等で公表することを推進する…」

年月	京都市	国
H19	○評価結果のHP公表の徹底	
H19年4月	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正(学校評価を規則にも明記) ○学校評価ガイドラインの改訂	
H19年6月	○「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」制定 (学校教育活動についても条例の対象とした。全国初)	○学校教育法一部改正
H19年10月		○「学校教育法施行規則一部改正」 (学校評価を生かした学校改善及び教育水準の向上、保護者・地域住民等への教育活動や学校運営に関する情報の積極的な公開の規定を盛り込む)
H19年12月	○京都市「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」第1回開催	
H20年1月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (19年6月の法改正を受けての改訂)
H21年3月	○学校運営協議会 142校設置	
H21年6月	○京都市学校評価ガイドライン【第3版】策定	
H22年3月	○学校運営協議会 163校設置	
H22年7月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H23年3月	○学校運営協議会 171校設置	
H23年11月		○文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン』改訂 (第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H24年3月	○学校運営協議会 184校設置	

Ⅱ 学校での取組事例

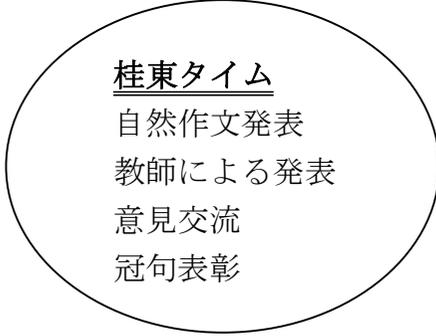
大事にしていきたい事

京都市立桂東小学校

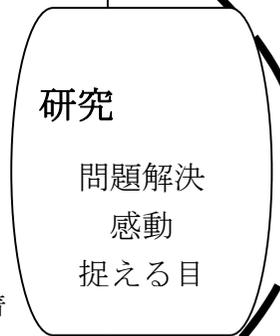


- 健康
- けじめ
- あいさつ

- ◎ 自分を大切に・命を大切に・他人も大切に
- ◎ CSS・SST 問題解決スキル・ふれあい月間
- ◎ 小さな親切運動・・・ 親切ポスト投稿
- ◎ 環境・掃除の徹底
- ◎ 生指 当たり前のことを当たり前
めあて→振り返り ・毎週木曜職朝後の連絡と月1回の児育連絡会
- ◎ あいさつ運動 おはようございます・～さん
- ◎ 環境教育の充実



- ◎ 書く・ 作文・ノート・まとめ
- ◎ 読解力 ⇒ 読書 (質の向上)
- ◎ DKK 音読
- ◎ 論理的思考力
- ◎ 授業力向上 ⇒ 学力向上
 - ・ねらいをはっきり
 - ・1時間の授業を大切に⇒ベル着指導案(教師が授業の流れをしっかりとっておく)
 - 5分休憩は学習の準備
 - ・見通しを持って計画的に
- ◎ 宿題 (目的・工夫)
- ◎ 理科教室



1 学校評価のねらい

- ・学校評価によって改善・充実していく課題の明確化を行い、目的意識を持った取組を行う。
- ・保護者や地域と子ども像を共有し、自他を認め、思いやりのある心豊かな子どもの育成を目指す。
- ・学校運営協議会による外部評価の実施、その結果を広報することで、保護者・地域に参観から参画を促し、開かれた学校づくりを行う。

2 桂東小学校の学校評価

(1) 評価方法

「京都市版学校評価支援システム」を活用して、保護者に対しては、魅力と課題を発見する「ニーズ調査型」アンケートを、児童教職員に対しては、実現度のみを聞くアンケートを実施し、平成23年10月、平成24年2月に当該アンケート結果をもとに分析を行い、分析結果を学校だよりに掲載した。さらに、学校評価実施報告書を作成し、自己評価、学校関係者評価として、教育委員会に提出するとともにホームページで公表した。

(2) アンケートの分析

ア 重要度・実現度の分布図（保護者）

出来ている ↑（出来ている度合い・実現度） ↓ 出来ていない	学校は家庭へ学校だより・学年だより・ホームページ等を使って、活動や取組を伝えていく。	子どもは様々な活動(行事・部活動等)を通して充実した学校生活を送っている。 子どもたちが安全に生活(登下校・遊び等)ができるよう配慮している。		
	学校は人権を大切にした教育活動を行っている。	子どもは学校であったことをよく話している。	子どもたちに基礎・基本の力がついている。 子どもたちにわかりやすい授業が進められている。 子どもは思いやりの心が育ってきている。 基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん等)が身についている。	
	桂東小学校の学校教育目標を知っている。 ベルマーク・アルミ缶回収などの取組みに進んで参加している。	子どもたちのために、学校・家庭・地域との連携がとれている。		
	進んで読書に取り組んでいる。	家庭学習に進んで取り組む習慣がついている。	子どもは自分の思いや考えをわかりやすく伝えることができる。 子どもは進んであいさつをしている。	
	低い・重要度 ← (どのくらい大切な・重要度) → 重要度・高い			

イ 各取組について

(ア) 学力の定着について

「子どもたちに基礎・基本の力がついている」「子どもたちにわかりやすい授業が進められている」の項目は、11月（前期）の学校評価では重要度が高く、実現度が低い項目であったが、2月（後期）には実現度が上がった。

京都市では、児童一人一人の学習目標に対する実現状況及び指導の課題を多様な側面から教科ごとに把握するため、定期的な確認をテスト形式で行い、自分で計画的に学習を行うことを支援するために「ジョイントプログラム」を実施している。これによる本校の成績は、回を重ねるごとに上昇しており、保護者からの学校評価の結果も児童の学力定着状況を裏付けるものであった。

学力が定着してきている状況を家庭でも共有していただいていることは、本校の教職員も日々の学習指導の成果として手ごたえを感じており、モチベーションの向上につながっているところである。

(イ) 学校であったことを話す

昨年度の学校評価で重要度も実現度も低く、11月（前期）の学校評価の結果でも横ばいの状態であったが、2月（後期）では重要度も実現度も上げることができた。これは、昨年度の学校評価でも議題としていたものであり、本来は重要度が非常に高い項目だと認識している。子どもたちの話を通して、学校での子どもの様子や行事を保護者も理解し、積極的に行事や学校運営に参加するきっかけになるからである。また、子どもの話を聞いてくれる人がいなくなれば、学校での悩み等を話さなくなり孤立してしまう恐れがある。授業参観後の懇談会や家庭教育学級、学校だよりの中で、「何かあった時に相談し、話すことができる親子関係の構築」「日頃の小さな言葉の受けとめ方」に関して繰り返し周知することで、子どもの話を聞くことの大切さの認識が深まった結果である。今後も、学校運営協議会と協力して、子どもたちが学校や家庭で「心の居場所」を見いだせる取組を大切にする努力を続けていきたい。

(ウ) あいさつについて

「子どもは進んであいさつをしている」の項目については、11月（前期）の学校評価同様、2月（後期）でも重要度が高いものの、実現度が低い状態が続き、質問項目のうちでも最下位の評価となっている。学校運営協議会の学校安全部会を中心に、児童へ積極的にあいさつをすることに関わっていただいている方々からは、「児童自らもあいさつするようになってきた」と評価いただいているが、保護者からは、まだあいさつは不十分であるという評価になっている。なぜ、2者の間で評価が異なっているのかという要因・背景について分析したところ、学校で「知らな

い人に話かけられても、話しかけてはいけない」と教えられた結果、毎日見かけている学校安全部会のボランティアについてはあいさつするが、あまり知らない保護者に会ってもあいさつはしないということが一因ではないかと結論に達した。今回の評価結果を教職員間で共有し、自ら考え、判断し、時に応じて気持ちのよいあいさつができるよう指導する取組を推進していきたい。

	質問文	実現度
1位	学校は家庭へ学校だより・学年だより・ホームページ等を使って、活動や取組を伝えている。	5.6
2位	子どもたちが安全に生活(登下校・遊び等)できるよう配慮している。	5.4
3位	子どもは様々な活動(行事・部活動等)を通して充実した学校生活を送っている。	5.4
4位	子どもたちにわかりやすい授業が進められている。	5.2
5位	基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん等)が身についている。	5.1
6位	子どもは思いやりの心が育ってきている。	5.1
7位	学校は人権を大切にされた教育活動を行っている。	5.1
8位	子どもたちに基礎・基本の力がついている。	5
9位	子どもたちのために、学校・家庭・地域との連携がとれている。	4.9
10位	子どもは学校であったことをよく話している。	4.9
11位	桂東小学校の学校教育目標を知っている。	4.7
12位	ペルマーク・アルミ缶回収などの取組みに進んで参加している。	4.6
13位	家庭学習に進んで取り組む習慣がついている。	4.6
14位	子どもは自分の思いや考えをわかりやすく伝えることができる。	4.5
15位	進んで読書に取り組んでいる。	4.3
16位	子どもは進んであいさつをしている。	4.3

3 自己評価

学校評価実施報告書(23ページ)を参照

4 学校関係者評価

本校の学校関係者評価は、学校運営協議会理事会・学校評価部会において年2回(1月, 2月)実施しており、評価結果と改善策を共有するために学校だよりやホームページに掲載している。また、評価をいただくだけではなく、当事者意識をもった学校教育活動を前提とした改善策もいただいている。

例：学校だよりに掲載された学校関係者評価

学校だより臨時号でお知らせしております前期のアンケートの結果およびその考察について、学校運営協議会の委員の方々からのご意見を頂きましたのでお知らせいたします。

1, 挨拶について

挨拶をしてくれると嬉しくなって会話がはずみます。コミュニケーションの第一歩です。以前に比べて桂東の子は挨拶をしてくれるようになったと思います。大人たちが根気よく声掛けすることが大切でしょう。地域をあげて取り組んでいきたいです。

2, 生活習慣について

クロス集計により相関関係が見られるのは興味深いです。早寝・早起きのできる子は宿題も自分で進んでできるというのは、納得できます。最近夜更かしをする子が多いと聞きますが残念ですね。自立した子が多くなれば勉学にも成果が出ると思います。小学校のうちに生活習慣を身に着けることが大切です。朝ごはんもしっかり食べる子がよいでしょう。

3, 保護者の自由記述欄について

インターネットやホームページで学校の様子が容易に見られるようになりました。保護者の関心の高さが伺えます。PTA と学校でできる要求には対応していきましょう。保護者の考えがよくわかりました。子どもの安全についての意見が少ないのは残念です。

4, その他について

保護者集計結果の分布グラフでは「進んで読書に取り組んでいる」の実現度が低いようですが、学校ではよく読書に取り組んでいると思います。図書ボランティアさんの読み聞かせ・図書室開放・クラス文庫などいつでも読書できる環境整備の成果だと思います。

いろいろなお意見を頂きました。結果を受け止め、改善につなげたいと思います。

5 総括・次年度に向けた課題等

- ・学力向上に関しては、少人数化した学年に向上が見られたほか、高学年でも学力の向上が見られた。しかし、クラスによる伸びの差異もあるので、学習指導法のさらなる共有などが課題である。
- ・豊かな心に関しては地域の諸団体の方や見守り隊の方から、「あいさつができるようになってきた」という声が聞こえるようになった。ただ、知らない保護者があいさつをした場合には無視をすとの声もあり、時に応じた柔軟な対応も指導する必要がある。
- ・健やかな体づくりについては、日々の健康づくりに留意し、今年度はインフルエンザの流行最盛期においても、換気・手洗い・うがい・マスク等の徹底した励行により学級閉鎖を出すこともなく、2月のマラソン大会を無事実施することができた。

平成 23 年度 学校評価実施報告書【通年版】

(京都市立桂東小学校)

1 平成23年度 重点評価項目

『自他を認め、思いやりのある心豊かな子ども』の育成をめざして 重点評価項目「豊かな心」

2 自己評価 【 評価日 : 平成23年10月26日・平成24年3月16日

評価者・組織(名称) : 学校運営協議会評価部

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	基礎・基本の学力の定着	全市定着調査にて、全市平均プラス3%	ジョイントプログラムの5・6年の2教科平均正答率を見ると、全市平均が3.9～8.9ポイント上回っている。前年の5年生の全市テストで全市平均を下回っていた教科があったことを考えれば、かなりの回復といえる。また、学校アンケートにおいても「授業はよくわかりますか」の質問に対して88%の児童が「よくできている・だいたいできている」と答えている。学校の月目標の児童による自主決定も5月以降、児童会で決定されている。	本校の研究である「理科」の授業展開について導入の工夫や興味を持たせる組立てについて研修を持つ。ジョイントプログラムの結果、クラスによるばらつきも見つかったので、研修により授業展開の一般化をはかる等、授業力の向上を目指す。
	わかる授業の創出	児童の学校評価アンケートの授業項目		
	問題意識を持って学ぶ子の育成	学校評価アンケート・全市テスト		
	学習規律の確立	学校の月目標の自主設定とその検証		
2 豊かな心	他者を認める心の育成	「ともだちの日」の設定・人権作文の発表	本校の重要度と実現度の分布において最重要課題となっている「挨拶」については、地域の見守り隊の方44人中7人の方は「よく挨拶してくれる」とご指摘をいただいた。「挨拶をしない」という意見の方は1名でした。今後のさらなる改善が必要。友達の日校長講話を受けての人権作文集では6年生が「大文字駅伝予選」の応援に来てくれた学年全員が私の友達であると発表する等、多くの児童が人と人の絆や思いやりの大切さを再確認した。思いを全校に広めていきたい。	見守り隊44名の顔写真と担当しておられる場所の一覧を作り一人一人の挨拶に関するコメントを掲載する。挨拶がコミュニケーションの第一歩だということをはっきりと知らせる。相手の人も挨拶を待ち望んでいることを知らせる。そしてさらに次の段階につながる挨拶の仕方へ発展させる。(お礼・激励・感謝・お詫びなど)作文集会の文章がそこの文章に終わらず、実践にむすびづくように、作文の内容を振り返ってみる時をつくる。
	他者に対する心遣いのできる子	小さな親切運動の推進・親切カードの投稿数		
	兄弟学年の交流給食と遊び	下級生への思いやり・縦割り集会運営		
	あいさつのできる子の育成	あいさつ週間・校門指導・あいさつの励行		
3 健やかな体	健やかな体づくり	朝の5分間走によるベースランニングの確立・マラソン大会の全員完走	陸上競技会や水泳記録会・持久走記録会など多くの機会を捉えて出場して体験の場を作った。5年・6年生は西京学童駅伝大会にほぼ全員参加を目指して、4月よりタイムトライアルをするなど体力作りに努めた結果、全員が完走し入賞も果たした。今後も2月の全校マラソン大会に向けての5分間走などを計画している。運動委員会の計画する縄跳び集会なども冬に向けての運動確保に役立つが、全校一致して取り組むのは難しい。	戸外に出て遊ぶのが億劫になる冬の運動として、マラソン週間やクラス大縄大会などの行事を、全校教職員も一致して盛り上げる。大文字駅伝や西京学童駅伝などの高学年の様子を下級生に学校便りやホームページなどを介して、がんばることの大切さを伝える。よき伝統である健全な体と精神を受け継ぐ。
	健康に関心のある児童の育成	う歯治療率 フツ化物洗口		
	体育向上への意欲付け	全市小学生記録会への積極的参加・水泳・陸上・駅伝・持久走への参加		
	部活動の充実	指導者の確保と各大会・交流会への参加		
4 学校独自の取組	グリーンスクール	桂川や街並の清掃活動で地域貢献	地域と連携しての桂離宮前桂川河川敷の清掃活動は、毎回ゴミ袋10数袋の回収量となる。それでも不法投棄やパーベキューの残骸など大人のモラルの改善が必要である。冠句に関しては、地域の方から冠句をいただいていた作品を募集しているが、毎月総数が400首を超えて、関心の高さを示している。アルミ缶は毎月8000円近くを回収し、牛乳パックは4月から800kgを集めた。しかし電気・エアコンのつけっ放しや教職員の意識改善も必要かと思われる。	美しい学校・美しい地域環境づくりをめざして、保護者・地域とともに清掃活動を実施するグリーンスクール運動を引き続き継続し、子どもの頃から環境美化に対する意識やモラルを育成したい。エコライフの推進については、環境に対する関心を高め、自らエコライフを実践できる子どもに育つよう、地域やNPO団体との連携を図り、環境教育の充実をさらに推進していきたい。
	冠句	冠句の表彰により投稿増加を目指す(投稿数の増加)		
	安全教育の徹底	避難訓練(年間5回)(大規模二次避難)などを通して災害に対する意識を高める。		
	エコライフ推進	牛乳パック・アルミ缶の回収数の増加・エコ意識の定着		

3 学校関係者評価 【 評価日 : 平成23年11月4日・平成24年3月19日

評価者・組織 : ○学校運営協議会 , 学校評議員 (いずれかに○)

評価結果	改善に向けた支援策
<p>1. 確かな学力は基本的な生活習慣が大きく影響している。最近はや夜更かしをする子が増えているが自律した子でなければよい成果は出ない。</p> <p>2. 以前に比べ、よく挨拶をするようになってきた。大人たちが根気よく声掛けをすることが大切でしょう。</p> <p>3. 健やかな体に関しては、日々の健康づくりに留意し、今年はインフルエンザの流行最盛期においても、換気・手洗い・うがい・マスクなどの徹底した励行指導により学級閉鎖を出すことも無く、2月のマラソン大会も無事実施できた。</p> <p>4. ホームページによる学校の情報発信に対応する保護者反応で関心の高さがわかります。こどもの安全に向けた意見が少ないのが残念です。</p>	<p>1. 学習と生活習慣の相関があるのは興味深い。親にもよびかけて夜型の子を作らない。</p> <p>2. 挨拶は地域をあげて取り組んでいきたい。</p> <p>3. 駅伝大会は応援に会場まで行かせてもらいます。</p> <p>4. 古紙回収の場所を増やしたり、PTAも呼びかけてリサイクルに協力する。</p>

4 総括・次年度の課題

1. 学力向上に関しては少人数化した学年の向上がみられた他、高学年の向上もあった。効果はジョイントPIによる推移や全市テストの比較において、検証できた。しかし、クラスによる伸びの差異もあるのでこの是正が課題である。
2. 豊かな心に関しては地域の諸団体の方や見守り隊の方から、「挨拶ができるようになってきた」という声が聞けるようになった。ただ知らない保護者が挨拶をした場合には無視をすることの声もあり、柔軟な対応も指導すべきであろう。
3. 健やかな体については、日々の健康づくりに留意し、今年はインフルエンザの流行最盛期においても、換気・手洗い・うがい・マスクなどの徹底した励行指導により学級閉鎖を出すことも無く、2月のマラソン大会も無事実施できた。
4. 学校独自の取組は平成15年より続いているKES環境マネジメントSS(学校版)の認定を今年も受けた。また地域やPTA活動・委員会活動が一体となったりリサイクル運動も活発に行われ資源保護の意識が定着していると思われる。

学校評価のねらい

学校教育活動全般の内部評価、外部評価を広く保護者・地域に公表し、より確かな学校改善を目指すことを通して、学校教育目標を具現化し、より特色ある学校、開かれた学校づくりを推進する。(学校評価支援システムの有効的活用)

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法	
中 間	4	教育指導計画書の作成 本年度の評価計画 学級計画案、自己目標の設定	学校運営に関する 基本方針の承認	参観・懇談・家庭訪問・学 校便り等で、本校の教育活 動の周知	
	5	評価項目の作成、共通理解			
	6	外部評価 (前期末のアンケート集計・分析) 児童・保護者			
	7	内部評価 (中間期、自己評価) 教職員			
	8		学校運営協議会理事会 にて分析、検討、共通 理解	公表(学校便り、HP)	
	9				
	10				
	11				
	12	外部評価 (年度末のアンケート集計・分析) 児童・保護者			
	1	内部評価 (年度末、自己評価) 教職員			
	年 間	2		学校運営協議会理事会 にて分析、検討、共通 理解	
		3			公表(学校便り、HP)

<学校教育目標>

笑顔に満ちあふれ、強く伸びゆく 砂川の子ども

☆めざす子ども像☆

す なおな心で、気持ちの良いあいさつをする子ども
な かよく、みんなと生活する子ども
が んばり通し、努力する子ども
わ たしたちの学校・地域を誇りに思う子ども

<学校経営方針>

家庭・地域との連携をより深める中で、個々の児童に、
「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む教育を推進する。

☆7つの“コンセプト”（教育目標の具現化に向けて） ※コンセプト（基本理念・こだわり・主張）

☆1. <学力向上>

・全ての児童に、基礎基本の学力の定着を図ると共に、個々の可能性を伸ばさせる学習の充実を図る。（授業改善に努め、自らの学習指導力を向上させる。）

☆2. <人権尊重>

・人権意識、規範意識、自己有用感に満ちあふれ、将来にわたり自他を尊重し続ける、心温かな児童の育成を図る。（共により良く生きようとする主体的態度を育成する。）

☆3. <生徒指導>

・個々の児童の規範意識の高揚を図ると共に、日々の学びや健やかな成長を目指し、絶え間ない、見逃さない生徒指導の充実を図る。（校内・諸機関との連携を強化する。）

☆4. <言語環境>

・全ての学習のベースとなる言語を重視し、あらゆる場において言語活動の充実を図る。（読む、書く、聞く、話す活動に重点をおいた諸取組を推進する。）

☆5. <環境整備>

・児童の学びの場としての“環境づくり”に努める。
（落ち着いて日々の学習を進めることができる環境づくりをする。）

☆6. <連携強化>

・学校・家庭・地域のより一層の連携を図り、協働して子どもを育てる“地域ぐるみの学校づくり”をめざす。（学校運営協議会のより一層の充実をめざし、連携を強化する。）

☆7. <協調、協働>

・全教職員による共通理解と協働体制で、決めたことは皆でやり遂げる。
（みんなで、こだわりを持って徹底して取り組み、その成果を検証していく。）

1 学校評価のねらい

学校教育活動全般の内部評価，外部評価を広く保護者・地域に公表し，より確かな学校改善を目指すことを通して，学校教育目標の具現化を図り，より特色ある学校，開かれた学校づくりを推進する。

2 砂川小学校の学校評価

(1) 評価方法

「京都市版学校評価支援システム」を活用して、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「学校独自の取組」という4つの分野にわたって実施した。

教職員・保護者に対しては，魅力・課題発見型（ニーズ調査型）アンケートを，児童に対しては実現度のみを聞くアンケートを実施し，当該アンケート結果をもとに分析を行った。

さらに，アンケート結果やその他の指標も活用した「学校評価実施報告書」を作成し，教育委員会に報告するとともにホームページに掲載した。

(2) 平成23年度 重点評価項目

- ・読書習慣の日常化（確かな学力）
- ・あいさつの日常化（豊かな心）
- ・早寝・早起き・朝ごはん（健やかな体）

(3) アンケートの分析

教職員16項目，児童11項目，保護者15項目のアンケートを行っている。平成22年度前期以降のアンケート結果と比較できるものを保護者，学校運営協議会に提示している。

また，アンケートの自由記述式欄の記載内容は全ての教職員で共有すると共に，評価結果の，プラス評価をいただいた項目を皆の喜びとして共有し，個々のモチベーションを高めることで，次なる改善策等の話し合いを持つようにしている。

ア 子どもに読書の習慣がつくこと

保護者アンケートでは，“よくできている。”“だいたいできている。”が5割を超え，平成22年度前期に比べると徐々にではあるが評価が高まってきている。

今年度，特に力を入れている活動の1つである「読書習慣」については，教職員・児童・保護者それぞれが課題を共有し，習慣化できるようになってきているので，読書の日常化に一步，近づけたのではないかと考えている。

しかし，“あまりできていない。”という評価も3割あり，学校だけではなく，家庭においても習慣づけがされるように，親子読書会をはじめとした家庭を巻き込む読書活動を推進するなど，さらなる家庭への働きかけが必要と考えている。

学校では，今後も「おはようタイム」での読書や読み聞かせ活用，学校図書館・伏見中央図書館の本の貸出等の取組を実施していく。

イ 子どもが楽しく学校に通うこと

児童については“そう思う。”が平成 22 年度前期は 5 割程度であったが、7 割程度まで上昇した。“大体そう思う。”も含めると 9 割という結果であり、ほとんどの児童は学校が楽しいと感じ、学習や生活を送ることができている。これは、学校生活の中で、学習や生活、友達との関わりなどについて、様々な面で一生懸命取り組んでいることが結果として表れている。

さらに、地道ではあるが、常に子どもたちの困りや悩み事に素早く対応し、解決を図ろうと教職員が日々努めていることこそが、児童が充実した生活を送るための、より良い教育環境を作り上げていると言える。

ウ 子どもが進んであいさつをすること

心豊かな人間関係の育成に向けて、あいさつの日常化の充実に取り組んだ。その結果、保護者については、“よくできている。”“だいたいできている。”が 7 割を超え、児童については、“そう思う。”“だいたいそう思う。”が 9 割まで大きく上昇した。

今年度、特に力を入れている活動の「あいさつ」についても、保護者・児童・教職員がそれぞれ課題を共有し、習慣化できるようになってきているので、あいさつの日常化にも一歩近づけたのではないかと思う。しかしながら、保護者からの記述式意見からは、集団登校時のあいさつや地域の方へのあいさつ、場面に応じたあいさつについて課題が明らかになっている。

あいさつの日常化・意識向上にむけて、学校においては、地域女性会との“合同あいさつ運動”をはじめ、児童主体の“あいさつ運動”等を推進していく。また、各家庭に向けては、学校便りやホームページ、懇談会等の機会にあいさつの重要性を伝えると共に、地域の方々には、各種団体長会議等での広報活動を行い、地域ぐるみの“あいさつ運動”に向けての協力支援をお願いしていく。

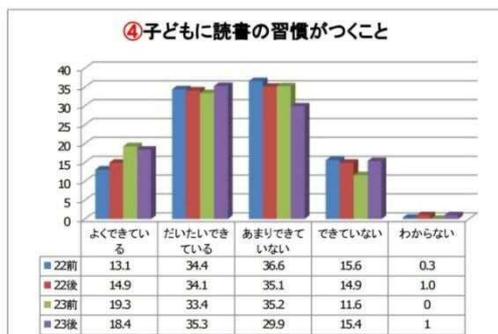
教職員



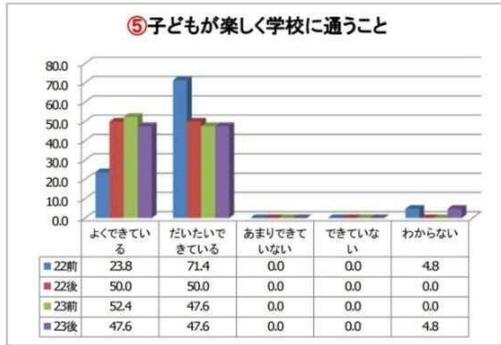
児童



保護者



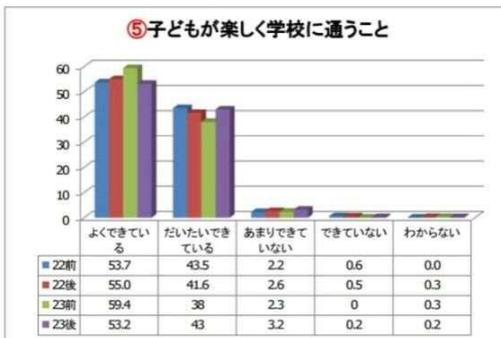
教職員



児童



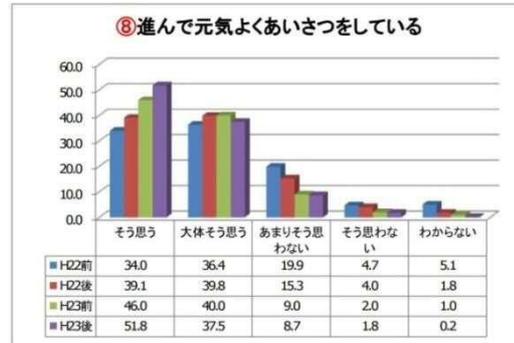
保護者



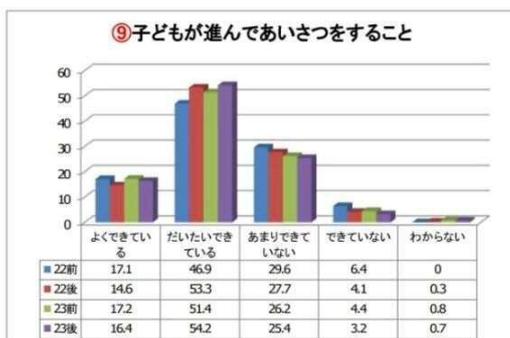
教職員



児童



保護者



3 自己評価

学校評価実施報告書（30ページ）を参照

4 学校関係者評価

本校の学校関係者評価は、学校運営協議会において年2回（9月、2月）実施しており、評価結果の共有と、その改善策を共有するため、学校だよりやホームページに掲載している。

評価結果では、「児童の“学校生活は楽しい。”“友達と仲良く生活している。”が平成22・23年度と2年連続で評価が上がっているのは非常に良い。」「どの教職員も誰に対しても気持ちよくあいさつし、地域行事にも積極的に参加していることが、学校の明るい雰囲気につながり、子どもの気持ちにも反映されている。」という評価をいただいた。また、「学校でも家でも進んで読書をしている。」と児童は思っているものの、保護者は、5割程度しかそうは思っておらず、読書の日常化に向けての家庭での読書生活についての見直しや、親がすべき躰や学ぶべきことについては、子育て講座や家庭教育講座を設定していく等、学校運営協議会としての支援策をご提案いただいた。

5 総括・次年度の課題

「読書習慣の日常化」「あいさつの日常化」「早寝・早起き・朝ごはん」の3点を重点として取り組んできたが、その結果、各項目において一定の成果を上げることができた。中でも、学力向上・言語環境の充実につながる「読書」については確立されてきたと考える。来年度は、学校だけではなく、各家庭でもその習慣が身につくような取組を進めていき、すべての学習のベースとなる言語能力の向上につなげていきたい。

また、「あいさつ」についても、今年度の取組の中で、習慣化・意識化されてきたと考える。来年度は、学校内だけでなく、地域・家庭でのあいさつ、場に応じたあいさつ等についての取組を進め、より心温かで豊かな人間関係の育成に努めていく。

自己評価 【 評価日 :平成24年3月1日

評価者・組織(名称) : 評価委員会

】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	授業改善・指導力向上	学校評価アンケート 授業研修、研究協議の状況	授業改善・指導力向上については保護者の90%が「出来ている・大体出来ている」と回答し、児童については、平成22年度前期は80%であったのが、今回は90%を超える結果となった。これは、校内研究、若手授業研究を中心として、教材研究や授業の流れ、効果的な質問や個別の支援等を工夫してきた成果であると思われる。基礎・基本の定着については、帯時間を活用して語学力・計算力をつけ、また家庭学習についても丁寧に見ていくことに努めたので、少しずつではあるが、基礎基本の方が向上している。ジョイントプログラムの授業においても、算数の力が伸び、全帯平均レベルに達する事ができた。読書習慣の確立については、「出来ている・大体出来ている」と肯定的な回答をした保護者が50%を超え、児童については70%を超えていた。教職員については、平成22年度前期は43%であったのが、今回は70%を超えていた。2年間継続して取組を行ってきた結果、読書100冊を達成した児童は180名(昨年度140名)、図書室の利用者数は前期5190人、後期6375人(延べ人数)と大幅に増加した。	授業改善・指導力向上については、今後、若手教員がますます増加していく傾向の中、今以上の研修を積み重ねる必要がある。改善策の1つとして、出来るだけ多くの授業実践を積み重ねたいと考える。また、今年度より学習指導要領が新しくなり、新たな単元も入ってきている。経験年数にかかわらず、より一層の教材研究が必要である。そのために、校内研究会にて教材をどうみるかなどでテーマを設けた研修も取り入れていかなければならない。さらには、期間指導の中で、どのような個別指導をするか、そして、ひとりひとりの考えをどのように見取るかについても研修を深めていく必要がある。基礎・基本については、定着度を高めるためにも、両系統の単元をスライラ的に意図的に取り組み、反復学習を進めていきたい。読書習慣については、学校内だけでなく、家庭においてもその習慣づけがされるように、家庭への働きかけが必要である。そのためには、「親子読書会」をはじめとした家庭を巻き込む読書活動を進めていきたいと考える。
	基礎・基本の定着	学校評価アンケート 読書習慣の確立		
	読書習慣の確立	学校評価アンケート 図書室の利用状況		
	家庭学習の習慣化	学校評価アンケート 保護者との連携の強化		
2 豊かな心	心温かな人間関係の育成	学校評価アンケート 状況観察 挨拶運動の達成状況、縦割りで活動等の達成状況	前期に引き続き、心温かな人間関係の育成に向けて、あいさつの日常化と縦割り活動の充実に取り組んだ。その結果、保護者については、「出来ている・大体出来ている」が70%を超え、児童については「大体そう思う・そう思う」が約90%であった。また、教職員については、「大体出来ている」が平成22年度前期は47%であったのが、今回は90%に大きく上昇していた。この結果から、あいさつの日常化、意識化が大きく進んだことができたと考えられる。しかし、地域の方へのあいさつや、場面に応じたあいさつなどについては、まだ課題が残されている。また、縦割り活動等の実施により、異年齢集団のつながりや、リーダーシップ・フォロワーシップの力が育ってきた。活動中の児童の様子を見ると、仲良く助け合う姿や、活動を楽しみにする児童の姿、活動による児童間のつながりの深まりを感じることができた。また、子どもがまわりや約束を守ることについては、保護者・児童ともに肯定的な回答をしたのは90%であった。また、教職員については「よくできている」が平成22年度は0%であったのが、今回は24%であった。積極的な生徒指導の結果、規範意識が定着についてきたと考える。	さらなる挨拶の日常化、意識化に向けて、学校・地域・家庭が連携し合って取組を進めていく必要がある。学校においては、地域・児童との合同あいさつ運動をはじめとし、児童主体のあいさつ運動や、さまざまな場面であいさつの推進を進めていく。また、家庭に向けては、学校便りやホームページ、懇談会等にて、地域の方々に 대해서는、各種団体長会議等に広げ活動を行い、あいさつ運動の推進について協力支援をお願いしていく。人権教育の推進や豊かな体験活動、生徒指導の充実により、児童の「豊かな心の育成を図っているが、更なる充実を目指して、「見守りた児童」についての共通理解、個別指導と支援の強化を行うと同時に、規範意識を培うことができるよう全教職員が一丸となって、指導の徹底を図る。
	人権教育の推進と充実	学校評価アンケート 個別の指導計画の進捗状況		
	豊かな体験活動の実践	学校評価アンケート 幅広い体験活動の実施状況		
	生徒指導の充実	学校評価アンケート 問題行動に対する校内体制の充実		
3 健やかな体	基本的な生活習慣の確立	学校評価アンケート 状況観察 生活がんびり表の分析	基本的な生活習慣の確立については、早寝・早起き・朝ご飯等の生活リズムは、保護者、児童、教職員ともに80%前後が肯定的な回答であった。一方、この2年間通して、10～15%の児童に基本的な生活習慣が身につけていないという課題が見られた。	学校行事、PTA行事、地域行事等、保護者や地域との連携を図る取組や、学校便り・ホームページ等の広報活動を通して、基本的な生活習慣を改善できる取組を今後も強化していく。また、基本的な生活習慣に課題のある児童や保護者には、さまざまな場面で改善への働きかけをしていく。体力の向上については、引き続き継続して取組を進めていき、さらなる向上へと努めていく。安心・安全の取組については、学校だけでなく、地域を含めて防災についての学習を推進していく。
	体力の向上	学校評価アンケート 運動部活動への参加状況		
	安心・安全の取組	学校評価アンケート 安全教育の実施状況		
	健康教育	学校評価アンケート 健康教育実施状況 学校保健委員会協議内容		
4 学校独自の取組	読書環境の充実	学校評価アンケート お話の会、読み聞かせの会の取組状況 図書運営への参加状況	読書環境の充実については、前期に引き続き、月1回の「お話の会」、週1回の「読み聞かせの会」、毎日の図書室の運営協力、図書室整備の協力等、図書ボランティアの方々にご協力いただきたくてきた。危機管理についても、前期に引き続き、学校安全ボランティアの方々の自主的運営により、登校時から下校時までの間、地域の「安心・安全」を見守っていただくことができた。地域との連携については、5年生長期宿泊学習において総合大学の学生にボランティアとして活動のサポート、校内マラソン大会において消防団の協力・応援、大文字駅伝大会において地域をあげた応援など多くの協力をいただいた。また、20年続いている取組で、空き缶を回収し換金して車椅子を購入するという活動に地域の方も協力していただいている。小中連携については、麻森中学校区5校共通の小中一貫教育目標「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童・生徒の育成」を目指し、さまざまな取組を進めることができた。また、保幼小連携についても、連絡会を設け、児童の様子等について交流をもつことができた。	前期同様、図書ボランティアや学校安全ボランティア、地域の部活動指導者の方々と連携をさらに深め、個々の取組がさらに有効的に作用するように、働きかけの強化をしていく。また、ホームページ、学校便り等を活用し、地域連携に関する情報を公開して、本校の取組を理解していただき、砂川教育への支援・協力や、新たな人材確保につなげていく。保幼小連携については、一貫した教育を推進できるよう、連絡会や校内研修などを設定するなどして、取組を進めていく。
	危機管理	学校評価アンケート 学校安全ボランティアとしての参加状況		
	地域との連携	学校評価アンケート 各種団体、近隣の校園との連携状況		

3-② 関係者評価 【 評価日 :平成24年3月7日

評価者・組織 (学校運営協議会、学校評議員(いずれかに○))

評価結果	改善に向けた支援策
<ul style="list-style-type: none"> 児童の「学校生活は楽しい」「友達と仲良く生活している」が2年間で右肩上がりによくなっているのは、学校での生活が充実していることにつながっているのでもよい結果である。また、トイレのスリッパを並べる、環境整備を心がけるのは、とても大切だと思う。15年前(砂川小の保護者であった)と比べると、教職員の様子や対応が変わってきた。どの教職員も気持ちよくあいさつし、地域行事にも積極的に参加している。このような様子が学校の良い明るい雰囲気につながり、ひいてはそれが子どもにも反映しているのだと思う。 「進んで読書をしている」「『そう思う』が少し減っているのが気になる。また、早寝・早起き・朝ごはんのところが結果で、朝食食べない子がいたり、就寝時刻が遅かったりすることも気になる。おうちへの働きかけが必要である。今後「おうちでの生活は楽しいか」という項目もあればよいと思う。また、「保護者としてPTAや地域の行事に参加すること」で「あまりできていない」のところが気になる。仕事や土日の習い事等でなかなか参加できない事もあると思うが、改善の工夫が必要である。 読書活動については、数も大切だが、それ以上に中身も大切である。読書習慣のない子はどんな本から始めても良い。ある程度の読書習慣がいたら、次の取組は、読書内容の充実であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣の確立や、保護者のPTAや地域の行事参加については、学校便りやホームページ、懇談会などで働きかけをしていく。 学校はひとりひとりの子どもに丁寧に対応しているが、1から10まで学校に任せるのではなく、親がすべき仕事やしつけがある。親として学ぶべきことについては、子育て講座や家庭教育講座のような設定も含めて、改善していく。 読書の日常化に向けて、家での読書生活について見ていく。かつては、親自身が本を読む姿を子供に見せて、子どもは「本を読むことについて」その大切さを学んできたので、「親が背中を語る」ということはどうか。また、家庭で読書をする習慣をつけるために、例えば、「TVを消す時間」を家庭で作るといった取組をしてはどうか。読書についての支援策をいただいた。

4 総括・次年度の課題

今年度、7つのコンセプトのもと、『学力向上』『読書環境の充実』『心豊かな人間関係の育成(あいさつ運動)』の3点を重点として取り組んできたが、その結果、各項目において一定の成果を上げることができた。なかでも学力向上・読書環境の充実につながる「読書」については、学校における読書の習慣は確立されたと思う。来年度は、学校だけでなく、家庭でもその習慣が身に付くような取組を進めていき、すべての学習のベースとなる言語能力の向上につなげていきたい。また、「あいさつ」についても、今年度の取組の中で、習慣化・意識化されてきたと考える。来年度は、学校内だけでなく、地域・家庭でのあいさつ、場に応じたあいさつ等について取組を進め、より豊かな人間関係の育成に努めていく。

学校評価のねらい：自己評価（学校）と外部評価（家庭・地域）の評価をもとに、本校教育活動の充実を図る。自己評価では本校教育目標の実現を目指し、具体的な目標を設定し、実践することを通じ成果と課題の確認を行う。また、外部評価から自己評価を客観的にみること、学校自ら取組の継続・点検・見直しを行うとともに、外部の評価者の本校教育活動に対する意識を高めていく。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
前期	4	教育指導計画の提示 教職員自己目標の設定		
	5	学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討 休日参観 保護者アンケート	第1回 学校教育方針の説明	
	6	評価結果の分析		学校ホームページ 学校だより
	7	学校評価（生徒アンケート） 生徒・保護者懇談		
	8	学校評議員による意見聴取	第2回 評価の実施	
後期	9	教職員自己評価		学校ホームページ 学校だより
	10	体育大会・文化祭（保護者・地域の方 のアンケート）		
	11			
	12	学校評価（生徒・保護者アンケート）		
	1	教職員自己評価		
	2	学校評価（生徒アンケート） 学校評議員の意見聴取	第3回 反省と課題、次年度に 向けて評価の実態	学校ホームページ 学校だより
	3	総括と次年度の学校教育計画検討		

学校教育目標

「確かな学力，豊かな人間性，心身の健全な生徒を育成する」

スローガン

“みんなの力を合わせ，日本一通いたい学校に”

目指す生徒像

- 自律の精神を重んじ，自己の人生を切り拓こうとする強い意志をもつ生徒。
- 自他を尊重し合い，自己の属する集団での役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める生徒。
- 規範意識を高め，正義を重んじ，差別や偏見のない社会の実現に努める生徒。

教育目標

① 学習指導の充実

- ・ 各教科，領域において指導方法等の工夫，改善を行い授業力の向上を図る。
- ・ 学習することを尊び，お互いを高め合う学級，学年集団づくりに努める。
- ・ 「学習確認プログラム」「学力・学習状況調査」等の結果を真摯に受け止め，教科会等で分析，課題を明確し，学力の向上に向け具体的な取組を立案実行する。

② 生徒指導の充実

- ・ 生徒理解に努め，心の通った指導を推進することで，安心，安全な学校づくりに努める。
- ・ 情報の共有を図り，統一した指導をおこなうことで，保護者の信頼に努める。

③ 規範意識の育成

- ・ 約束やルール，規律等を確実に身に付けられるよう学校教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。
- ・ 家庭，地域と連携し，「きまり」を守ることの大切さ，将来展望や「生き方」についての考えを深める取組の実現を図る。

④ 健康教育の推進

- ・ 基本的生活習慣の確立を目指し，「早寝・早起き・朝ごはん」の運動等の取組を図る。
- ・ 心身の健康で豊かな生活の実現に向け，防煙，薬物防止等の具体的な取組を図る。

⑤ 学校改善の一層の充実

- ・ 開かれた学校づくりを目指し，HP，配布物等での確かな情報発信の充実を図る。
- ・ 保護者，地域の方からの学校評価を真摯に受け止め，より良い学校づくりに努める。

1 学校評価のねらい

- ・ 確かな学力の定着と互いに高めあう集団づくりを目指した学習指導の充実
- ・ 規範意識の育成を目指した生徒指導の充実
- ・ 基本的生活習慣の確立を目指した健康教育の充実
- ・ P T Aをはじめ地域の声を取り入れたより開かれた学校づくり

2 双ヶ丘中学校の学校評価

(1) 評価方法

「京都市版学校評価支援システム」を活用して、保護者に対しては、魅力と課題を発見する「ニーズ調査型」アンケートを、生徒・教職員に対しては、実現度のみを聞くアンケートを実施し、平成23年10月、2月に当該アンケート結果をもとに分析を行い、分析結果を学校だよりに掲載した。さらに、アンケート結果やその他の指標も活用した「学校評価実施報告書」を作成し、教育委員会に報告するとともに、ホームページで公表した。

(2) アンケートの分析

ア 「活用力」を育てる授業の実践

アンケート調査によると、生徒、教職員、保護者の三者とも「授業の内容がよくわかる」という質問について、重要度は高いが、実現度が低い結果になっている。また、京都市が実施している学習確認プログラム等での学習状況の結果は、比較的良い数値であるものの、記述・論述形式で解答する問題の正答率に落ち込みが見られる。単に正確な知識を豊富に持っているだけでは答えられないような問題を解ける力、与えられた資料（文章・図表・数表）を正確に理解し、それに自分の知識を統合させ、一定の条件の中で答をまとめ上げる能力を養う授業への改善が求められている。

授業力向上のため、若手のみならず中堅、ベテランの教員も来年度の学習指導要領完全実施を良い機会ととらえて、学習指導計画の評価を行い、授業の改善にフィードバックさせたい。

学校評価(分布)

生:生徒 保:保護者 教:教職員

高 ↑ 実現度	<p>保 学校教育目標が、校内に掲示されている。 学校行事や生徒会行事を通して充実感や達成感を感じている。</p>	<p>生 学級活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。 生徒は、学級活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。(部活動含む) 生徒は、学校行事や生徒会行事を通して、達成感や成就感を感じている。(部活動含む)</p>		<p>保 子どもは楽しく学校へ通っている。 生 学校、学級で楽しく過ごせている。</p>
	<p>生 掃除はしっかりできている。</p>	<p>保 家庭で、子どもの学校生活のことを話題にしている。 保 校舎・校内・教室は、整理整頓されている。 教育活動の内容や子どもたちの様子などが、「たより」で保護者に伝えられている。 子どもの問題行動に対して、適切な指導、家庭連絡がされている。 生 学校の約束事や決まりを守っている。 学校教育目標に沿った教育ができています。 教 生徒には、困ったとき親身に相談に応じてくれる。</p>	<p>保 子どもは集団生活の中でルールを守り頑張っている。 子どもが困ったとき、教職員は親身になって相談に応じてくれる。 教職員は、子どもの良いところは認め、いけないことは注意してくれる。 生 進んで挨拶ができています。 自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりすることができています。 教 生徒は、学校・学級で楽しく過ごしている。</p>	<p>教 生徒は、学校で起こった問題(いじめなど)に対してしっかり対処してくれていると感じている。</p>
	↓ 低	<p>保 子どもは、学校行事や生徒会行事を通して、充実感や達成感を感じている。 保護者に学校からの出されたプリントをきちんと渡している。 先生は良いところは認め、いけないことは注意してくれる。 教 生徒は、掃除をしっかり取り組んでいる</p>	<p>保 子どもは、進んで挨拶をしている。 子どもは、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりすることができています。 教 生徒は楽しく授業が受けられていない。 生徒は、授業の内容がよくわかっていると思う。 生徒は、学校から出されたプリントを保護者にきちんとわたしている。 生徒は、先生は良いところは認め、いけないところは毅然として注意していると感じている。</p>	<p>教 生徒は、学校の約束事や決まりを守っている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">課題</div>
	<p>生 先生は、困ったとき親身になって相談に応じてくれる。 生徒は、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりすることができています。</p>	<p>生 楽しく授業が受けられている。</p>	<p>保 子どもは授業がわかると言っている。 先生は、学校で起こった問題に対してしっかり対処してくれる。 教 生徒は、進んで挨拶している。</p>	<p>保 子どもは、基礎・基本的な学力がついている。 生 授業の内容がよくわかる。</p>
低 ← 重要度 → 高				

イ 規範意識の育成

「学校の約束ごとや決まりを守っている」、「進んで挨拶ができています」、「掃除はしっかりできています」の3つの項目については、生徒の評価は比較的高いものの、教職員の評価は高いとはいえない。これは、教職員の中に、「規範意識をしっかり持って欲しい」、「誰もが自分から挨拶ができるようになって欲しい」ということの表れである。さらにいうと、規範意識のレベルに差があるともいえる。

この結果を踏まえて、あいさつ運動の充実はもちろんのこと、約束やルール、規律等を確実に身に着けられるように、学校教育活動全体を通して道徳教育を推進し、日々の学校生活で「約束ごとや決まりを守ること」の意味や大切さを指導する場面を多く持つようにしたい。

ウ 生徒指導について

アンケート集計結果

※ 下記の表中の実現度は、評価Aを4点、評価Bを3点、評価Cを2点、評価Dを1点として計算した得点を、無回答数を除いた回答数でわって平均得点をだしたもので、3点を目安に、それを上回れば高い評価、下回れば低い評価と見ることができるものです。

番号	評価項目	生徒実現度	教職員実現度
1	学校、学級では楽しく過ごしている。	3.33	3.00
2	学校の約束ごとや決まりを守っている。	3.20	2.60
3	学級活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる（部活動も含む）。	3.30	3.10
4	学校行事や生徒会行事を通して、達成感や成就感を感じることができる（部活動も含む）。	3.23	3.23
5	進んで挨拶ができています。	3.07	2.23
6	楽しく授業が受けられている。	2.89	2.80
7	授業の内容がよくわかる。	2.85	2.73
8	掃除はしっかりできています。	3.15	2.77
9	保護者に学校から出されたプリントをきちんと渡している。	2.94	2.67
10	先生は、困ったとき親身（しんみ）になって相談に応じてくれる。	2.82	2.97
11	先生は、学校で起こった問題（いじめなど）に対して、しっかり対処してくれる。	2.79	2.93
12	先生は、良いところは認め、いけないことは注意してくれる。	2.97	2.73
13	自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりすることができる。	3.08	2.47

「先生は、困ったとき親身（しんみ）になって相談に応じてくれる」の項目についての実現度数が低い結果になっている。これは、生徒が気軽に教職員へ相談しにくい状況があることが考えられる。教育相談や懇談だけでなく、日常的に生徒が相談したいときに相談できる状況をつくるため、日々のコミュニケーション、部活動の指導等の機会を通して生徒の理解に努め、心の通った指導を目指していきたい。

3 自己評価

学校評価実施報告書（37ページ）を参照

4 学校関係者評価

本校の学校関係者評価は、学校評議員において年2回（9月，2月）実施しており，評価結果や改善策を共有するため，学校だよりやホームページに掲載している。評価では，登下校の際に，一部生徒に見られる危ないと思われる行動（広がって歩く，飛び出し等）があり，安全面，マナー面での指導の必要を感じていただき，小学校児童の見守り活動の際に，中学生にも声かけを実施していきたいと提案をいただいている。

また，声をかけやすくするためには，中学生を知っていただく機会を充実することが重要であり，地域・保護者による学校行事への参加や安全・安心の取組，環境整備等を通じて学校活動の充実，生徒理解をさらに進めるためにも，平成24年度中に学校評議員会から学校運営協議会へ移行し，地域としてもさらに活動を通して学校へ協力していきたいとの意見をいただいている。

5 総括・次年度に向けた課題等

学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会の訪問では，「自己評価について，重要度・実現度をからめて丁寧に分析しているが，評価項目については，やりがいのある，実行性のある学校評価にするために，双ヶ丘らしさを見られるほうがよい」という指摘があった。今後，もう少し目標が達成できたかどうかを判定しやすい具体的なものに設定するため，重点目標の内容について検討していきたい。

平成23年度 重点評価項目

平成23年度 学校評価実施報告書【通年版】

(京都市立双ヶ丘中学校)

1 平成23年度 重点評価項目

<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着と互いに高めあう集団づくりをめざした学習指導の充実 ・規範意識の育成をめざした生徒指導の充実 ・基本的学習習慣の確立をめざした健康教育の充実 ・PTAをはじめ地域の声を取り入れたより開かれた学校づくり
--

2 自己評価【評価日：平成23年11月25日、平成24年3月1日 評価者・組織(名称)：学校評価委員会(運営委員会)】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	生徒・教職員アンケート調査 全教員による授業研修の実施 各種学力状況調査の結果分析 生徒・教職員アンケート調査 家庭学習習慣の定着化	アンケート調査によると、生徒、教職員、保護者の三者とも「授業の内容がよくなる」という質問について、重要度は高いが実効度が低いという結果が出ている。一方、各種の学力調査の結果を見ても全体には比較的高い結果であるが、記述・論述形式で解答する問題の正答率に落ち込みが見られる。したがって、授業の質の向上が求められているといえる。	授業力向上のために、専手のみならず中堅、ベテランの教員も、来年度より完全実施される学習指導要領をよい機会ととらえて、学習指導計画の評価を行い、それをフィードバックさせる。また、教科、担当者別に生徒アンケートを実施して、授業改善にいかしていく取組を行う。
2	豊かな心	規範意識の育成 生徒・教職員アンケート調査 道徳教育の実施状況 生徒・教職員アンケート調査 「あいさつ運動」の取組状況 「あいさつ運動」の徹底 自他共に大切にすることを推進	アンケート調査によると、「学校の約束ことや決まりを守っていること」の重要度が、保護者や教職員より生徒の方が低い傾向が見られる。このことから、生徒の意識レベルが教職員や保護者の意識レベルと比べ「甘い」と言える。生徒の規範意識を意図的に育てることが求められているといえる。	規範意識の高揚をめざして、道徳の時間や「あいさつ運動」の取組の充実はもちろん、日々の学校生活で折に触れ「約束ことや決まりを守る」との意味や大切さを指導する場面を多く持つようにする。特に各学級において「約束ことや決まりを守る雰囲気」を育てる働きかけを、日常的に行う。
3	健やかな体	基本的学習習慣の確立 安全・安心の取組	遅刻やペナル席については、取組の結果、一定の改善は見られたが、守れない傾向の生徒の固定化が見られる。指導が必要な生徒がはつきりしてきているので、個別の指導を行い、さらに全体の状況を改善することが必要。また、安全指導では、緊急時の対応について、教職員、生徒とも今一度訓練の実施も含めて再点検することが求められる。	遅刻やペナル席等に課題のある生徒に対する個別の働きかけを行うとともに、不登校生徒に配慮しながら、「無遅刻・無欠席生徒」を評価して、基本的な学習習慣の大切さを学級・学校全体にアピールしていく。また、安全指導では、火事・地震に加えて、津波などの他の自然災害や不審者の侵入などを想定した指導や訓練の実施を行っていく。
4	学校独自の取組	家庭・地域との連携 小中一貫教育の推進	週1回程度発行している「双ヶ丘中だより」や主な行事や取組ごとに更新されるHPIは学級通信と共に学校からの情報発信を担っている。引き続き、この取組を進める。 小中一貫教育においては、合同研修会だけでなく地生連の力を借りての小中一貫に取組む行事を行っており、地道な活動を進めてきた。	引き続き学校だよりやHPIで情報発信を行うとともに、次年度より発足する「学校運営協議会」の活動を通じて、学校からの情報発信や地域の力を活用した取組の推進等、家庭・地域との連携を推進していく。また、小中一貫教育においては、これまでの連携の在り方を検証しつつ、次への取組の展開を検討していく。

3 関係者評価【評価日：平成23年9月27日、平成24年2月24日 評価者・組織：学校評議員】

評価結果		改善に向けた支援策
1 回目	○行事や部活動などに一生懸命取り組んでいる生徒達の姿には、大変好感が持てる。 ○登下校のとき、一部生徒に見えて危ないと思われる行動(広がり歩き、飛び出し等)があるので、安全面、マナー一面での指導が必要ではないか。	○今まで同様に、生徒達の活動が行えるように指導をしていただきたい。 ○地域では主として小中学校児童に対しての見守り活動を行っているが、その中で中学生にも声をかけをしていきたい。
2 回目	○中学生らしい姿が見られる一方、夜間にならざる様子がある等、心配な一面もある。小まいたまから知っている子どももならば声かけが可能だが、知らない子どもには声をかけにくい。中学生を知る機会があれば、声かけやすくなるのではないか。 ○むずかしい保護者対応もあるとは思いますが、教職員にはがんばっていただきたい。	○来年度、学校運営協議会がスタートするというところで、地域の人々が学校を「応援」できるようなしくみを一つつくってほしい。そういうことならば、できる範囲で協力していきたい。

4 総括・次年度の課題

<ul style="list-style-type: none"> ○検証委員会からの指摘で「学校教育目標」について、もう少し「双ヶ丘らしさ」が見られる方がよいという指摘があったので、教育目標自体の見直しはともかく重点目標の内容についての検討(達成できたかどうか判定しやすい具体的なもの設定)を行っていく。 ○授業改善は、重要課題の一つであるので、以下の視点での改善を行う。すなわち、 <ul style="list-style-type: none"> ①基礎基本の定着をねらった反復学習のための教材開発と実践を行う。 ②授業の中で行う言語活動について、指導のねらい・時期・方法を指導計画に明記し実践する。 ③各授業についての生徒アンケートを実施し、授業改善に反映させる。 ○発足する学校運営協議会において、さらに地域との連携を強めていく方向の取組を進めていく。
--